

日本

ハンザキ研 研究所ニュース 2008(10) : 通巻 No. 33



発行 2008年9月30日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....

アンコ淵の決闘!!!・・・黒主 VS 二枚目 (左) 空中戦?!?!?



9月9日のことだった。朝から4個体ほどのハンザキがアンコ淵周辺をうろついている。主役は黒主だが、決闘相手になった二枚目とは、12年前に2ヶ所下流の人工巣穴で卵を守っていた尾の背側が2枚ある(二枚目の尾の意)オスのことだ。二枚目は8月27日にカニ籠トラップに入り、4年振りの対面となったが、以後9月15日頃までアンコ淵周辺に滞在していた。他のオスは黒主にアタックされては少し離れた所へ姿を潜めるのであるが、二枚目はすぐに巣穴のある岩の裾に定位して中を窺うように留まっていた。

その内、そろそろと穴に入りかけたが、中から黒主の反撃を受けたのである。ガップリと黒主に咬みつかれたまま後ずさりして出てきたが、互いに体を回転させつつ、水深1.5mほどの川底から浮上したのだ。黒主は全長99cm、二枚目は91cmという大型の個体同士が2mほどの長さになって回転する様はスリル満点の光景だった。この写真がその一瞬をかりうじて捉えたシーンだ。

昨年は、思わず見とれてしまいシャッターを押し損ねたので、今年はとにかくデジカメのシャッターを押すことにした。一瞬のことであり 4 コマを映像に残すことが出来た。そして芸術写真の世界ではないが、わくわくする最高の 1 コマが残った。皆さんはどうご覧になりますか？ (5 ページの写真 1・2 から続くものです)

このシーンの後、パッと左右に離れたが黒主は無論無傷で、二枚目も吻部に僅かな白い筋が出来ただけであった。相手に大きな傷を与える上顎歯の奥にある口蓋骨歯列は二枚目の頭骸骨に当たって深い傷を与えることが出来なかったということだ。黒主は素早く穴に戻っていったが、二枚目の方は少し下流へ離れたものの、すぐに引き返ってきて岩の裾に再び定位して巣穴の中を窺う態勢にもどった。一方的な闘いで黒主が侵入者を追い払ったが、相手も致命的な傷を負ったわけではなく再挑戦の機会を狙っている様子であった。

.....

兵庫県オオサンショウウオ保護センターでの繁殖は？

ハンザキを工事期間中、河川から救出して長期間の飼育を経て、河川工事が終わり次第、原状復帰させる事業に立ち会ったのは 3 回目である。平成 2 年の災害では円山川水系大屋川支流の建屋川で 230 個体を 3 年半、平成 16 年災害の円山川支流出石川で 413 個体を 3 年間飼育管理した。3 回目の市川本流の河川工事では、目下 65 個体を飼育して 1 年になる。建屋川や出石川の場合には、収容先の水源が湧水であったためか繁殖は見られなかった。水温の年較差が少なく (12 ~ 18℃) 性的な活性化が起こらなかったものと考えている。当研究所の保護センターでは河川の水をポンプ・アップして流水で飼育しており、当地は本種の繁殖が知られている水域である。当然ながら 9 月上旬の繁殖期には産卵が見られオス同士の激しい闘争が惹起されるものと思込んでいた。

咬傷を受けて隔離したり産み出された卵の収容にと準備万端整えて、その機に至るのを今か今かと待っていた。8 月 10 日、9 月 10 日の月例定期健康診断でセックス・チェックも実施したが、明瞭なオスの性徴が現れない。咬み傷を持つ個体も見当たらない。一体どうしたことなのだろうか？ ハンザキ橋の下にあるアンコ淵では 9 月 12 日に産卵が確認されているのに、同じ場所で同じ川の水が流れているのになぜなんだろう？ 咬み合いで指を失ったり、運が悪いと首を咬み切られての死亡個体の生産は真っ平御免だが、それにしてもなんとなく淋しい繁殖シーズンだった。

それでは、何が繁殖の、性的な活性化に影響を与える条件なのだろうか？ 来年の繁殖シーズンまでの大きな課題が残された。生活空間の密度が高すぎる (25 ㎡プールに 65 個体は、河川では考えられない高密度だ) とか栄養不足 (アマゴやニジマスばかり・・贅沢?)、隔離された産卵巣穴の備えが無かったなど色々と考えさせられているが真相は闇の中、今後の観察や試行錯誤に任せねばならないだろう。これらの産卵繁殖のための必須条件が解明できれば、ハンザキの行く末は安心できそうだ。しかし、やはり自然の生息場所における自然な繁殖が至上の生態である。自然を壊すことなく、残すことを心掛けたいものだ。

ハンザキの繁殖活動 150分

12日、午前10時、アンコ淵の周辺がざわついている感じがした。ハンザキ橋の上から観察していると、周辺に潜んでいたオスが巣穴へためらい無く入っていく。これまではジリジリと非常に慎重に臆病なほど近づくのに時間をかけていたのに、変だなと感じたので河原に下りて淵の周囲にある岩の上に丸椅子を置いて観察することにした。周辺を見渡していると、あちこちからハンザキが姿を見せては穴へ入っていく。メスが入ったことをどのようにして感知したのであろうか？ かなり前に広島市安佐動物公園のメンバーがこのようなスニーカー行動を報告していたので、メスが入ると闘争が起らないことを知っていたが、実際にこの目で見るのは初めてのことだった。私はメスの姿を見てはいなかったが、周辺のオスたちはどうやって知ることが出来るのだろうか？ 全てのオスたちにメスの姿が確認できたとは考えられない。下流にいる個体は匂いなりフェロモンなりが流下してくれば感じる事が出来るだろう。では上流からやってきたオスたちはどうして分かったのだろうか？ 他のオスたちの行動から察知するのかもしれないが、今後の課題だ。

結局、入巣した個体を7匹は数えたが、あの出入り口の狭い巣穴（黒主の頭が斜めになってギリギリ通る程度）からは想像しがたい個体数が入れるということだった。最後の個体が入ったのが10時30分、それからしばらくは静かであったが、途中で黒主が3回も呼吸に出てきたのには驚いたので、「主が出てきてしまっているのかい」と思わずつぶやいたが、他にも2個体のオスが2回呼吸に出てきた。まあ、黒主は最初から入っていたので息が苦しくなってもおかしくはないが、メスは我慢強いということになる。他の5匹のオスも後から入った個体かもしれないが、息止めが長いということか11時30分頃から次々と出てきては深呼吸一番（写真4は黒主のイナバウワー型呼吸）後にどこかへ消えていった。次々と出てくるので捕獲できないので、とにかく個体識別をするために出てきたハンザキを撮影していったが、急ぎ足で出てきては我慢していた呼吸を思いっきりするのでなかなかうまく撮影できない。ハンザキ研ニュース32の繁殖パーティ参加者名簿にある9月12日確認とあるのが、今回の出席者だ。もう出てこないのかなと見ていると、12時過ぎに1個体がゆっくり出てきたので採捕してみた。尻の孔からゼラチン状の紐がちょろっと覗いている（写真6参照・・・産卵の最初と最後には卵黄の無い空っぽの囊が続くが、こんなに小さな囊を見るのは初めてだった）。産卵したメスだ!!! このメスは黒主を除くと、最初に入って最後に出てきたということなので2時間は息止めをしていたことになる。メスは静かに産卵し、オスは興奮狂乱状態で放精するので早く息苦しくなるのかもしれない？

かくして、2時間半の産卵受精行動を、齧り付きの席で見ることができたが、立ち上がるうとして、膝関節が錆付いていてよろめき、危うく水没するところだった。水温17℃、長靴を履いていても足は冷え切っていた。しかし、大満足の時を過ごし頭の中は興奮の渦が巻いているようだった。28日にはアンコ淵の岩の上でイシガメが何かを食べているようなので、双眼鏡で見るとハンザキの卵であった。死卵2と透明な卵1で流出してきたものだ。

オオサンショウウオの夜間観察会に参加して

正会員 大阪府箕面市 濱 聖一郎

随分と時間がたってしまいましたが、9月20日の「観察会」では大変充実した体験をさせて頂きました。栃本先生の大変わかりやすい講義（ハンザキとそれらを観察できる研究所自慢？）を皮切りに、研究所の保護プール内でのハンザキの見学（懐中電灯の明かりに照らされた水面に、さも心地よさげにプカプカと浮かんでいるハンザキたちの姿は非常に印象的で、何だか幻想的な光景ですらありました。あの姿は、人の心を和ませますね）

そして、念願の野生のハンザキの観察・・・本当に「一匹も見つからなかったらどうしよう」と、そういったツキの無い方である私は正直のところ不安であったのですが、幸運にも3個体のハンザキに出会えたのはうれしい誤算といったところでしょうか。さらにハンザキの全長、体重の測定や注射器を使ったマイクロチップのうめこみ作業の見学や味覚を除いた五感を用いてハンザキを堪能できた事は、誠に喜ばしく楽しい体験でありました。参加させていただいた甲斐があったというものです。

今回、私は徒歩や公共交通機関での参加でしたが（流石にそんな人は私だけでしたね・・・）スタッフの方々の車で魚ヶ滝までや、宿舎（民宿こうチャン）までの帰り道を送っていただいたりと、大変お世話になりました。イベントの運営でご多忙のところに加えてのお手数に感謝の念は尽きません。この場を借りて御礼申し上げます。これからもこういう形式での参加になると思いますから、これからもよろしくお願いします。

研究所で売っていたハンザキグッズ（あんこうグッズですかね？）にも大変強い興味があったのですが（今回、銀谷工房で念願のハンザキロ＝小銭入れは入手しました・・・）一寸言い出しづらくて断念しました。次回以降はイベント開始前に見ておきたいものだと思っております。これからも生野周辺での様々なイベントに参加していきたいと思っておりますので、イベント案内やハンザキ研ニュースをよろしくお願いします。当方は首を長くしてお待ちしております。

生野の山は、私の住む大阪に比べて風も冷たいだろうと思われまますので、皆様もくれぐれも体調管理に注意してハンザキの研究に打ち込んでください。

2008年10月16日

ハンザキ所長の気持ち

濱さんは、今年の冬に雪の中から突然に姿を見せた青年です。民宿こうチャンで牡丹鍋を食べるためにやって来たそうです。こうチャンのお母さんとは長い長いお付き合いで私も大変にお世話になっています。お母さんは、地元のなんでもないような食材を使った一品を食事に付け加えてくれます。これがメインの食べ物よりもうれしいのです。お母さんもまた、それを生きがいにされているようです(当ニュース30号のこうチャンうどん参照)。

お母さんの話を聞いて見学に来られたようですが、それを機会に私どもの会員になっていただけました。私も車の免許を持たず周りの皆様方の好意に助けられていますが、濱さんのように皆様もドンドン参加していただければ幸いです。



写真1 進入する二枚目(左)を迎え撃った黒主



写真2 噛みついたままもつれ合う二匹



写真3 メスが入った後、続々とオスが続く



写真4 1時間後、次々と出てきたオスの深呼吸



写真5 (右ホホ、腰、尾などの白い所)

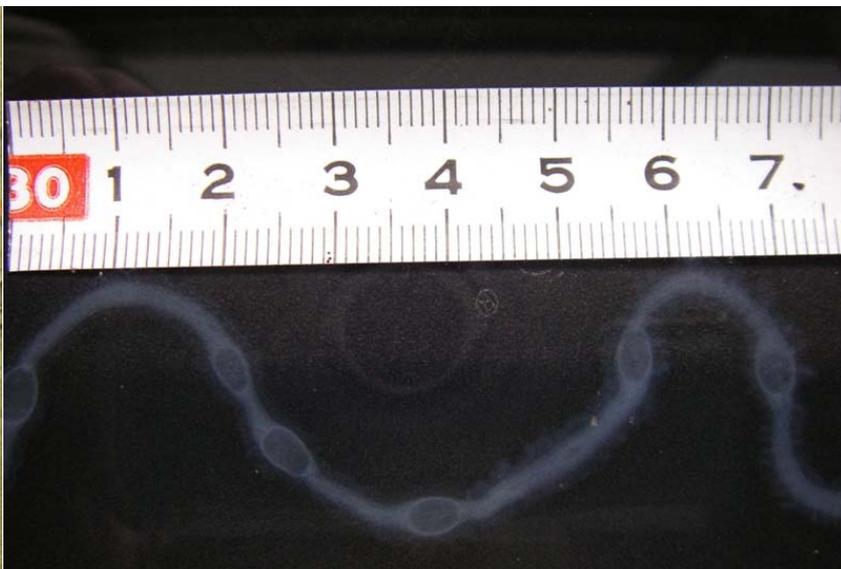


写真6 最後に出てきたメスの尻から出ていた卵紐

ハンザキ研日誌

2008年9月

- 1日：オオサンショウウオ保護センターの日常管理を受託。本日より業務開始
- 4日：但馬県民局和田山分室 足立室長他来所
- 5日：市川・竹原野の工事で、最終的な岩の配置チェック
- 6日：カニ籠トラップ 10個設置とする
- 7日：見学者多数 5組 24名
- 9日：アンコ淵の決闘観察
- 10日：イシガメの今年生まれがカニ籠に入る、川の中で生活していることが判明
- 11日：オオサンショウウオの健康診断
：カニ籠による調査終了
- 12日：アンコ淵でハンザキの繁殖確認
：安威川ダム建設事務所から、人工巣穴で産卵初確認の報
- 14日：国交省姫路河川国道事務所長・宮武一家見学に来所
：イモリの未成体（全長4㍍）水田の畦で発見される
：大阪・産経新聞社・櫻井記者取材に
- 15日：GS-271 調査終了（8月17日～）
- 16日：国交省東播海岸事務所の環境会議、明石市にて
- 17日：GS-273 調査開始（～10月17日）
まだアンコ淵に太オスと新規登録小オスがウロウロしていた
- 18日：埼玉医科大学・塩田教授来所（私の新米教師時代の1期生）
- 19日：出石川のハンザキ収容池の諸資材搬入
：日本ウミガメ協議会から大量の資料届く
- 20日：ハンザキ夜間観察会③実施、大人ばかり 10組 20名
：兵庫水辺ネットワーク 9名視察に
- 21日：民宿せせらぎ荘の神戸の10名の客が当所の炊飯場使用（雨天のため）
- 22日：モンドリ定期調査実施
- 26日：NPO法人の会誌「あんこう」創刊
- 27日：朝日新聞・大島記者取材
- 28日：賀茂川ハンザキ 8個体収容、計 18匹となる
：黒主の巣穴から流出した死卵をイシガメが食べていた、3卵収容
：京都府福知山高校の写真部・生物部 4名来所、バーベキュー場使用
- 30日：黒川区長の竹村勲さんが大ハンザキの木彫り作成、受贈、玄関に展示する
（全長185㍍、体重45㍏という世界最大のハンザキです）
-

ハンザキ所長のツブヤ記録（刊行ペースがやっと追いついた!!! 前の月のニュースを翌月内に刊行するようになっていきたいと思っているのですが・・・いろいろと・・・）

（この印刷物はセブン-イレブンみどりの基金の助成をうけて作成しています）